

報 告

2020年度「経営学部WIL発信力強化セミナー」実施報告書

宮崎 崇将

追手門学院大学経営学部 准教授

Takamasa MIYAZAKI

Associate Professor,

Faculty of Management,

Otemon Gakuin University

村上 喜郁

追手門学院大学経営学部 教授

Yoshifumi MURAKAMI

Professor,

Faculty of Management,

Otemon Gakuin University

1. はじめに

本稿は、2020年度 追手門学院大学 経営学部「課題解決型授業の推進」事業内で開催した「経営学部WIL発信力強化セミナー」（全4回）の実施報告書である。2018年に創立130周年を迎えた追手門学院大学含む追手門学院は、これを契機に、主体的に学び、協働して問題解決にあたる学習スタイルとして、「WIL（Work-Is-Learning：行動して学び、学びながら行動する）」¹コンセプトを提唱している。同学経営学部でも、「追手井プロジェクト」や「北摂エリアマッププロジェクト」などWILの正課科目を中心として教育活動に積極的に取り組んでいる。

この「WIL」では、その構成要素（目標）として、「社会有為・協働性・発信性」の3つを掲げている。本セミナーは、この3つの構成要素の中でも、各学部の専門教育で学ぶ機会の少ない「発信性」の技術面に焦点を当てた。そこで、新型コロナ蔓延の状況に配慮し、遠隔配信の90分全4回シリーズのセミナーとしてWIL活動を後方支援する内容を企画した。すなわち、WIL活動に参加する学生を対象²として、「外部への情報発信力」を高めることを狙いとしたのである。

具体的には、「インターネットを用いたイベント等への参加者の募集と管理」、「動画の撮影と編集」、「SNSを用いた情報発信」、「チラシやポスターのデザイン」といった個別のWIL活動において実践面での課題となるスキルの向上を目指し、各課題につき専門家を招聘する形で実施されている。以下では、各回の内容につき、同時に実施した参加者アンケートの分析を含めて報告する。

2. 第1回セミナー

1) 第1回セミナーの概要

第1回セミナーは、「インターネットを用いたイベント等への参加者の募集と管理」をコンセプトに、Googleフォームの活用に関する基本的スキル取得をすることを目標に設定した。セミナータイトルは「Googleフォームで参加者募集と管理」と題した。株式会社アプルの福嶋伸之氏を講師に招き、2020年9月24日（木）13時20分より（90分）、遠隔会議システムZoomを使用して開催した。当日は、在学学生、教職員、卒業生を含め、27名の参加希望者を集めた。

¹ 追手門学院大学「WILで革新する追大の新教育」ホームページ <https://www.otemon.ac.jp/guide/neweducation.html>（2020年12月公開）

² 本セミナーでは、遠隔会議システムであるZoomを利用したこと、会場のキャパシティ等の問題が発生しないことから、参加対象者として、WIL参加学生を指導する立場となる追手門学院大学の教職員、ならびに卒業生にも門戸を開放した。

2) 第1回セミナーの内容

大まかな内容は、①Googleフォームでできること、②テンプレートの選択、③パーツの追加、④設問／選択肢の作成、⑤フォームの公開、⑥画像の挿入、⑦セクションなど詳細の設定についての講義をおこなった。また、ワークとして実際にスマートフォンでGoogleフォームをつかってアンケートの作成を実施した。

3) 第1回セミナーの成果と課題

参加者アンケートを見ると、図1のように9割の参加者がイベントに「非常に満足した」、もしくは「満足した」と回答している。また、図2のように、仕事や関係する分野において役立つ部分があるかという問いに対して、6割強の参加者が「非常にあった」と回答している。「あった」を含めれば、9割弱の参加者が役立ったと答えているのである。

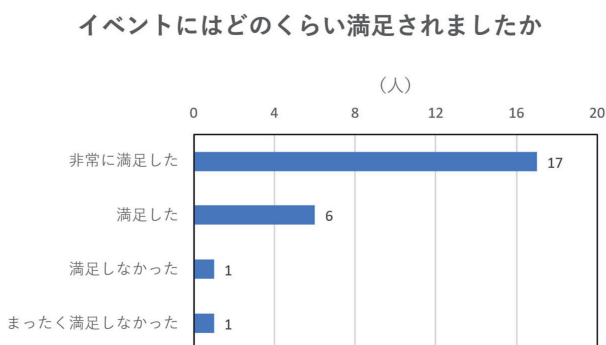


図1 第1回セミナーの満足度 (n=25)

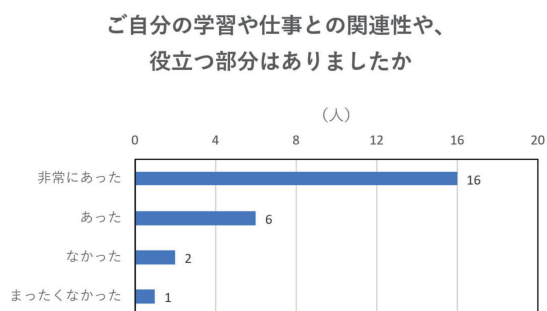


図2 第1回セミナーの有用性 (n=25)

自由回答では、次のような回答が見られた。講義そのものに対しては、「フォームの作り方と編集の基礎すら知らなかったのととても参考になりました」や「Googleフォームは以前から見たことはあるが、今回初

めて作成してみても思ったより難しくなかった。とても参考になる内容で、社会人になって使う機会があれば、生かしたい」というようにGoogleフォームをまったく使ったことがない参加者にも分かりやすい内容であったという意見が多かった。また、実際にgoogleフォームの制作過程を見せ、双方向で実施したことで理解しやすかったという評価も多数見られた。講義形式だけでなく、質疑が可能なワーク型でのセミナー内容は、他の回でも積極的に取り入れたい。

3. 第2回セミナー

1) 第2回セミナーの概要

第2回セミナーは10月1日(木)13時20分より(90分)で実施し、35名の参加があった。セミナーはZoomを使ってオンライン形式で開催した。今回は「スマホで作る一段上の動画制作」をコンセプトに、大学生が手持ちのスマホで撮影し、動画編集アプリを使って動画制作ができるようになることを目標にして設定した。セミナータイトルは「スマホとアプリで簡単動画編集」と題し、講師として株式会社LaASU1の遠藤尚博氏を招いた。第2回目の内容と成果は以下のとおりである。

2) 第2回セミナーの内容

セミナーではまず現代の社会における動画の意味について説明された。日常の生活の中で、例えば電車を乗り換える1分間に動画を見るというように、スマートフォンによって私たちの生活の中で動画が非常に身近な存在になっている。それにより、テレビで30分や1時間のTV番組を見るという感覚から、スマートフォンで3分や5分で完結するYouTube動画を見るというように私たちの映像に対する時間感覚が変化しており、映像に求められるものが変わっている。

動画制作のメソッドについて、①企画、②撮影、③編集の3つの側面から説明された。

第1に「企画」に関して、実際のテレビCMなどを題材に、動画の企画を行う上で、「誰に」と「どんな商品(サービス)なのか」ということをしっかりと考える必要があること、そのために徹底的にクライアントと対話することでイメージの共有化をすることや、調査を行うことが不可欠であることが示された。

第2に「撮影」に関して、三分割法と画角、光の使い方という基本的な3点を意識することで、素材となる画像や動画の質が高まることが説明された。

第3に「編集」では、動画編集ソフト「VLLO」でフリー素材を活用して編集作業を行った。その上で、①伝えたいメッセージは何か、②動画と音楽のマッチ、③動画のテンポ「3秒ルール」という動画編集のポイントが解説された。

3) 第2回セミナーを通じた成果と課題

前項のように、今回のセミナーでは単に動画編集ソフトの使い方だけではなく、動画の意義や企画の重要性などを含めた包括的な内容となった。

参加者に対するアンケートを見ると、図3のようにほとんどの参加者が「非常に満足した」、「満足した」となっている。また、図4のように、セミナーの内容の有用性に関して、多くの人が役に立つ部分があったと答えている。



図3 第2回セミナーの満足度 (n=22)

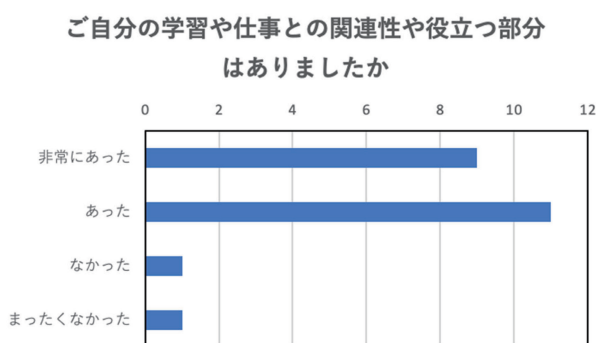


図4 第2回セミナーの有用性 (n=22)

自由回答を見ると、「このセミナーで特に勉強になったことを教えてください」という設問に対して、「動画編集の良いアプリを知れた」や「動画編集において、抑えるべきポイント」、「撮影・編集のテクニック」といった撮影や動画編集、アプリの使い方など技術的な

ものが挙がった。加えて、「動画の編集技術だけでなく、動画を作成する目的など本質的な部分まで説明があり、とても勉強になりました」、「動画を見る機会が増えていく中でどのように活用していき、どのような目標を持ってやれば良いのかがわかった」という動画の位置づけや企画の部分が勉強になったという意見も多く見られた。

その一方で、「その他、セミナー全体についてのご質問やご意見がありましたらご記入ください」という設問に対して、「講座の中の動画作成のコンセプトみたいなのが無かったのでどのようなものを作ればいいのかわからなかった」や「動画編集作業をもっと詳しく知れるのかと思っていた」という意見が見られた。これは実際の動画作成の際に参加者がかなり自由な状態で作る形であったことと、90分という限られた時間の中で動画制作に関わる全体を取り上げたため動画編集の基礎などをより詳しく知りたい参加者には不満を感じる部分があったと考えられる。この点は、今後の課題としたい。

4. 第3回セミナー

1) 第3回セミナーの概要

第3回セミナーは10月8日(木)13時20分より(90分)実施し、28名の参加があった。セミナーはZoomを使ってオンライン形式で開催した。当回は、「日々、なんとなく行っているSNSを改善する」をコンセプトに、「SNSによる効果的な情報発信」を目標にして設定した。セミナータイトルを「Instagram、Twitter、SMSで情報発信」と題して、やりなおし英語サロンの伊藤裕子氏を講師に招いた。第3回目の内容と成果は以下のとおりである。

2) 第3回セミナーの内容

まず、現代の社会におけるSNSの意義について説明があった。消費者アンケートで「朝起きてまず何する」という質問に対して、「SNSを見る」は、「トイレに行く」に次いで2位になっている。また、「SNSが自分の暮らしに必要という人の割合」は10代、20代では男女とも60%を超えている。このように若者を中心にSNSは生活の中で不可欠なものになっており、企業がマーケティングを行う上で非常に重要なツールとなっている。

SNSとして日本ではInstagram、Twitterなどが使用

されており、多くの人が利用しているが、多くの場合漠然として利用されている。そこで有名なインフルエンサーであるゆうこす（菅本裕子）の著書などをもとに、SNSに取り組む上での基本的な考え方や姿勢について説明された。ポイントとしては、①自分が心からワクワクできる寝食を忘れるくらいに好きな軸を見つけテーマに選ぶこと、②自分が思っている以上にしっかりと自分のことを伝える、③漫画のストーリーだと思え、④夢や願望だけでは応援すらされない、⑤より簡単にキャッチーに、の5点である。ここからSNSを考える際に、常に「自分の想い」、「届けたい層のニーズ」、「自分の環境」の3つを踏まえることが重要であると指摘された。

実際にSNSに取り組む上で、主にInstagramに役立つおすすめのアプリとして、SNS投稿のためのテキスト改行アプリ「改行くん」、写真加工アプリ「Snapseed」、デザインツール「Canva」の3つが紹介された。

このおすすめアプリを使って、実際にInstagramで一時的に作られたアカウントに各自写真や文章を考えて投稿し、それを評価してもらうというトレーニングを行った。

3) 第3回セミナーを通じた成果と課題

参加者に対するアンケートを見ると、図5のようにほとんどの参加者が「非常に満足した」、「満足した」となっている。また、図6のように、セミナーの内容の有用性に関して、多くの人が役に立つ部分があったと答えている。

自由回答を見ると、「写真加工にアプリを教えてもらえたうえに、とても使いやすかったから非常にためになった」、「画像加工アプリの具体的な方法」、「写真の加工方法やアプリについて具体的に知ることが出来たこと」、「自分の知らなかったSNSを知ることができました！画像編集はSNS以外にも使えるので、ぜひ活用したいです」、「SNSを使った広報の時にはどのような画像編集が、見る人を惹きつけられるのかということがわかり勉強になりました」といった写真加工の方法やアプリを知ることができてよかったという意見が多かった。また、「ただ自分の好きな写真を投稿するのも良いが、フォロワー側の立場になって分かりやすさを追求することも大切だと学びました」や「年齢層まで考えて投稿はしていなかったので考えたいと思いました」といったSNSに取り組む上での基本的な考え方が

イベントにはどのくらい満足されましたか

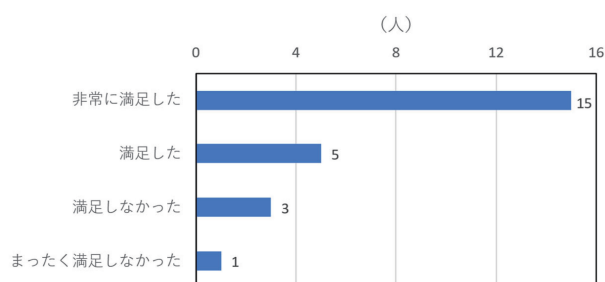


図5 第3回セミナーの理解度 (n=24)

ご自分の学習や仕事との関連性や、役立つ部分はありましたか

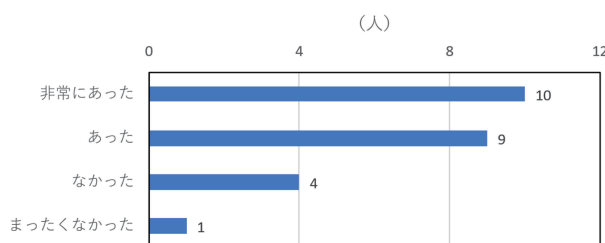


図6 第3回セミナーの有用性 (n=24)

勉強になったという意見も見られた。

その一方で、「投稿を受け取る受信者（ターゲット）の種類によって写真や加工も変えていくべきだと思うのですが、そういったことにも触れてほしかったです。それか、今回は『このターゲットに絞る』と最初に決めてほしかったです。目的に応じた写真加工や工夫がいたると思いました」、「素材となる写真を撮る際の画角や被写体の割合なども知りたいです」、「どのようにしたらバズるのかの例を知りたかった」といったより実践的でより詳しいノウハウについて、もっと知りたかったという要望が挙げられていた。

5. 第4回セミナー

1) 第4回セミナーの概要

第4回セミナーは、「チラシやポスターのデザイン作成」をコンセプトに、参加学生がそれぞれの活動の中で作成することが必要となるであろうチラシやポスターのデザインに関するスキルを向上させることを目標に設定した。セミナータイトルは「チラシ・デザイン・スキルアップ」と題した。アイデアリミックスクラブ株式会社のデザイナー奥村雅一氏を講師に招き、2020

年10月15日（木）13時20分より（90分）、遠隔会議システムZoomを使用して開催した。当日は、在学生、教職員、卒業生を含め、39名の参加希望者を集めた。

2) 第4回セミナーの内容

「チラシ・デザイン・スキルアップ」セミナーは2016年度より、アイデアリミックスクラブ株式会社と共同開発したセミナーであり、2020年度で5回目を迎える。また、専用のテキスト等も作成し、毎回のブラッシュアップも進んでいる。

今回も先述のテキストを使用し、講義を進めた。大まかな内容は、①情報の整理、②レイアウト(1)版面・マージンの設定、③レイアウト(2)グリッドの設定、④レイアウト(3)優先順位の適応、⑤レイアウト(4)強弱の設定、⑥配色、⑦文字・書体選び、⑧情報の図式化等についての講義をおこなった。また、ワークとして多くの参加者が使用可能なMicrosoft PowerPointを用いて実際にチラシを作成する過程例が提示された。

3) 第4回セミナーを通じた成果と課題

先にも述べたように、チラシあるいはポスターの作成に関わる個別の技術だけではなく、作成の大きな流れ、そして事前準備としての情報の整理などについての学修をおこなった。また、デザインの実践的なテクニックだけでなく、それを支える理論的な部分や考え方も紹介された。

参加者アンケートを見ると、図7のように8割弱の参加者がイベントに「非常に満足した」、もしくは「満足した」と回答している。また、図8のように、仕事や関係する分野において役立つ部分があるかという問いに対して、実に7割強の参加者が「非常にあった」と回答している。「あった」を含めれば、8割弱の参加者が役立ったと答えているのである。当該のセミナーについては、すでに5回目の開催を迎え、相当程度内容が洗練されつつあると考える。

自由回答では、以下のような回答が見られた。講義そのものに対しては、学生にも使いやすいPowerPointを標準としている内容であること、実際に制作過程を見せることで、理解しやすかったという評価があった。また、感覚的なものではなく、理論的な説明が分かりやすく、実践にも役立つという意見が多く見られた。具体的には、「ジャンプ率」や「黄金比率」などデザインにおいては比較的初歩的かつ実用的な手

イベントにはどのくらい満足されましたか

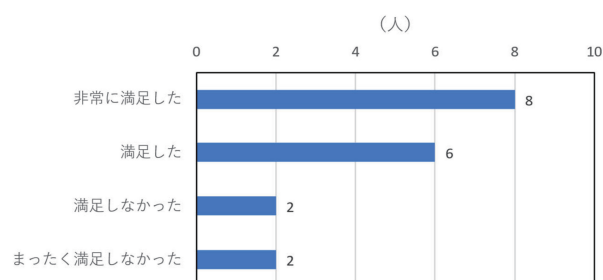


図7 第4回セミナーの満足度 (n=18)

ご自分の学習や仕事との関連性や、役立つ部分はありましたか

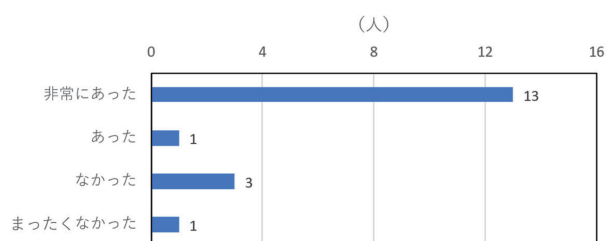


図8 第4回セミナーの有用性 (n=18)

法を消化したことが評価されていた。この点だけにおいても、「WIL」を含めた諸活動における情報発信に資するセミナーであったと思料できる。

6. おわりに

最初に、新型コロナウイルスの蔓延の中で、急遽企画・実施した本セミナーが無事に終えられたことに感謝したい。2020年は、新型コロナウイルスの蔓延により混乱の年であった。この影響は、もちろん教育業界、大学業界でも同様である。幸い追手門学院大学では、従前により導入を進めていたBYOD（学生が各自に情報端末を持つ）とLMS（学習管理システム）、そして、教職員ならびに関係各位の努力により、4月の学期開始より授業を始めることができなかった。一方で、新型コロナウイルスの感染拡大に配慮する形で、多くのカリキュラムが遠隔授業により実施された。当セミナーが意識した「WIL」についても、その学修内容の性質から、非常に困難を伴ったことが想像に難くない。

実際に、筆者の担当科目であった「大阪府中央卸売市場 提携事業」や「農事法人 見山の郷 提携事業」などについても、例年とは大きく異なる形で実施するこ

とを余儀なくされた。場合によっては、十分な学修が進められない場面も発生した。そこで、このような「新型コロナ禍における状況にこそ必要なセミナー」をおこなうべきであるという問題意識のもと、秋学期に全4回のWIL活動を後方支援するセミナーを開催した。

各回のセミナー内容とそのアンケートの結果を見るに、企画意図であった学部の学修では学びにくい「外部への情報発信」、特に実践面での課題となるスキルの向上は、一定の成功を得たと考える。急な準備であったため、参加者の募集・周知やセミナー全体のフォーマットの不統一などの課題は残ったが、これは今後の課題としたい。

最後に、短い準備時間しかない中で初めてのセミナーに対応して下さった講師の先生方、また学内でご協力くださった関係各位、参加してくれた在学生、卒業生、教職員の皆様に、改めてお礼申し上げたい。